

宮崎県知事 河野 俊嗣

新年を迎えて

謹んで新年のお喜びを申し上げます。

県民の皆様には、日頃から県政に対する温かい御理解と御協力を賜り、深く感謝申し上げます。



昨年は、約3年に及ぶ新型コロナとの闘いが、5類感染症への移行により大きな転換点を迎えました。また、世界に輝いた「WBC侍ジャパン」の合宿をはじめ、東九州自動車道「清武南～日南北郷」間の開通、国際定期便「宮崎ーソウル線」の再開、半導体生産拠点の立地決定など、明るい話題に恵まれた年となりました。

特に、23年ぶりのサミット関係閣僚会合となった「G7宮崎農業大臣会合」は、本県の基幹産業である農林水産業の未来につながる成果を挙げるとともに、MICEと呼ばれる大規模な会議などの誘致・受入れに向けて大きな実績となりました。

また、置県140年の歴史で初めて開催した「宮崎県人会世界大会」は、国内外から多くの本県ゆかりの方々が集い、本県の魅力を再発見し、世代や地域を越えたネットワークが築かれるなど大変意義深いものとなりました。さらに、これらの夕食会においては、カツオ、アジ、ブリ、マダイ等の「宮崎の魚」が振る舞われ、参加者から高い評価をいただきました。本県ならではの温かいおもてなしを通じて、豊かな食や農林水産業、文化など本県の多彩な魅力を広く世界に発信することができた成果を最大限に生かし、今後も、国内外における本県の知名度向上や、水産物をはじめとする県産品の販路拡大を図ってまいります。

また、本県の基幹漁業の1つであるかつお・まぐろ漁業は豊漁と高単価に恵まれ、特に近海かつお一本釣り漁業では、本県船が初めて漁獲高で日本一となる快挙を成し遂げるなど、各船とも前年の不漁を払拭する実績を挙げました。このほか、漁船漁業、養殖業全体の水揚金額も前年を上回りました。これもひとえに、漁業者をはじめとする関係の皆様のお力添えのたまものであり、心から敬意を表します。また、この勢いが今年も継続することを大いに期待しております。

さて、令和6年度は、県勢の更なる飛躍につなげるため、本県の強みである「子ども・若者」「グリーン成長」「スポーツ観光」の3つの分野で日本一を目指す「日本一挑戦プロジェクト」を掲げ、強い覚悟と決意をもって取り組んでまいります。

また、水産業におきましては、県一漁協合併に向けた事業計画の策定等を支援するとともに、「海業」の推進による漁業者の所得向上や漁村地域の活性化、物価高等に伴う漁業者負担の軽減、新規就業者や外国人材の確保・育成、漁港・漁場の生産基盤の整備等により、本県水産業の成長産業化を着実に進めてまいります。

今後とも、漁業者の皆様が安心して漁業を営み、安全に暮らし、そして県民の皆様においしい水産物を提供できる持続可能な水産業・漁村づくりに向けて、系統団体の皆様と共に全力で取り組んでまいりますので、一層の御理解と御協力をお願い申し上げます。

本年が、県民の皆様にとりまして希望に満ちた明るい年となりますよう、心からお祈り申し上げます。年頭の御挨拶といたします。

